

私は、地域若者サポートステーション(以下「サポステ」)で15〜49歳までの若年無業者の就労支援をしています。その現場で経験を積み、産業カウンセラーの資格を取得して6年がたち、支援というものは、いかに「その人ありき」

## ナビゲーター

であるかということ強く感じています。同世代の方の就労支援をしていく中で、年齢が近いことで理解が進みやすいこともあれば、難しく感じることもあります。そんな中、最近の相談者が話される内容は「コミュニケーションが苦手」「やりたいことが分からない」「自分に何ができるかわからない」「自分に自信がない」などが多いです。

# 産業カウンセリング理論と私の実践

◆ 36

「だかこそ、相談者の話を否定せず、しっかりと話を聴かせていただくことで、安心して話せる場所を一緒につくっていくことを心がけています。例えば、趣味の話や両親の話、飼っているペットの話など、直接仕事に関係ない話であっても、相談者の方が話したいと思うことを、私はまずじっくり聴いています。

## 若者支援の現場

これは、一直線に就職という目標にたどり着く必要はなく、紆余曲折しながら段階的な目標にたどりつけば良いとの思いからです。また、話のどこかに就職に役立つヒントがあることもあります。まずは「なんでも話せる場所」をつくることで支援者と相談者の間で信頼関係を築いていきます。

そのアドバイスが「否定」され「怒られた」と捉えられる事もあります。信頼関係があれば、そのアドバイスは相談者に届き、次のステップへとつながるきっかけになります。

その後、支援がうまくいき就職できたとしても、「会社で上司に厳しく叱責された」「怖くて相談ができない」などの理由で早期離職してしまう相談者もいます。会社内で信頼関係を築いていくのは相談者本人です。信頼関係が築くという人間関係における中で、優しく時には厳しく先

輩方からさまざまな事を学ばせていただき、そして何より相談者の方からも学ばせていただき今の自分があると思っています。

仕事ではなく人間関係が原因で離職し、相談にこられるケースが多い中、会社の中でも居場所となる場所や人がいることで、相談者の不安が解消し、本人の強みをうまく活用でき、企業にとっても十分な戦力になる人材が多くなることを、ここで伝えたいと思います。

【三重県北勢地域若者サポートステーション・日本産業カウンセラー協会中部支部会 員 仁木舞由子】

(火曜日に掲載)

# 就労に悩む相談者と企業へ求めること

